

子どもとまっすぐに向き合い大切にしてもらいたいこと

湯梨浜町のこども園から子育てに関する教育講演会の依頼を以前からされていました。何を話そうか考えていたのですが「子どもに向き合い大切にしてもらいたいこと」を演題に話すことにしました。私も3人の子どもの子育てを実際に体験しました。また小学校教育に長く身を置くものとして、今大切にしなければいけないことを話そうと思っています。

【子どもの心の安定を】

子どもが安心して安全にいられる環境が子どもの心をはぐくみます。これがベースとなり子どもたちは、自分の興味関心を広げ自分の持っている力を伸ばしていきます。伸びていく環境や言葉かけ、接し方が大切です。子どもの話をしっかり聞き、認める言葉かけ、成果や過程を誉める言葉かけを大切にしましょう。

【社会の当たり前を】

あいさつ、返事、くつをそろえる、時間を守る、約束を守る、人に迷惑をかけないなど、大人の社会で生活する上で当たり前にならなければいけないことはたくさんあります。これは子どもであってもやらなくてはいけないことです。それを学ぶ場が、こども園や学校生活だと思っています。

【子どもと向き合うことは苦しいことも】

子どもが生まれたから親になったのではなく、子どもを育てながら、悩んだり怒ったり泣いたり笑ったりしながら、親になっていくのだと思います。親として、ダメなことはダメと子どもと対峙することも必要です。

【豊かな体験を】

自然や人や地域にかかわる体験が豊かな心をはぐくみます。豊かな実体験が大切なのです。

【生活にリズムを】

子どもの成長の基本は規則正しい生活です。多くの子どもの課題は生活リズムの乱れから来ます。就寝時間、起床時間、朝ごはん、メディアとの付き合い方等を家族で考えましょう。

【次代に生きる力を】

これから先には大きな時代変革の時が来ます。変化の激しいこれからの時代に生きていくための大切な力の素地を育てていきましょう。



中島先生、インターンの櫻井先生がおいでになりました

学校の支援員として経験豊富な中島立志先生が、またインターンシップとして島根大学教育学部2年生の櫻井綾香先生が10月15日より羽合小学校へ来られています。中島先生には、担任を持たない級外の先生として多くの学年の授業に、また櫻井先生には、6年生と4年生を中心に学校の生活を体験してもらい、これから鳥取県の教職を目指す糧としてもらいたいと思います。